

指導資料



鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第4号

- 高，特別支援学校対象 -

平成19年5月発行

農牧業単元を基にした地理授業展開の一事例

平成15年4月から実施された「高等学校学習指導要領地理歴史編」(以下高校学習指導要領という。)では、「現代世界の地理的事象を系統地理的，地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や

考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ことを地理Bの目標として定めている。

大きな変更点として，大項目が次のように再構成されたことが挙げられる。

旧 高等学校学習指導要領	現 高等学校学習指導要領
(1) 現代と地域	(1) 現代世界の系統地理的考察
(2) 人類と環境	(2) 現代世界の地誌的考察
(3) 生活と産業	(3) 現代世界の諸課題の地理的考察
(4) 世界と日本	

また，内容の取り扱いでは「二つ又は三つの事例を選び」となり，各項目で取り扱う内容を適切に選択する必要も出てきた。このことから，以前は中心的に扱われていた地図，交通・通信，環境，人口・食料，民族問題の各分野も選択学習となり，授業の進め方にも工夫が必要となった。

この大項目(1)「現代世界の系統地理的考察(以下大項目(1)という。)」では，自然環境，資源・産業，都市・村落，生活文化に関する地理的事象の中から，現代世界を系統地理的に捉える視点や方法を身に付けさせるのに適した事象を選択して取り上げる。そうして，地域的な差異や類似性，分布やまとまりなどに着目して世界的視野から考察し，また，分布図や区分図などから空間的な規則性等を見いだす活動を通して現代世界が多様な地域か

ら構成されていることを理解させる。さらに現代世界を系統地理的に捉える視点や方法を身に付けさせることを主なねらいとしている。

したがって，この大項目の授業では事例を取り上げて具体的に考察する学習を重視し，「現代世界を系統地理的に捉えさせる視点や方法を身につけさせる」ように取り扱うことが重要となる。

さらに，この大項目(1)に含まれる農業の単元は地形・気候の自然環境分野の学習とのかかわりが大きいことから，これまでも重視されてきた。また，この後の大項目で取り扱う現代世界の地誌的分野とのかかわりも大きい。そのため，生徒に興味・関心をもたせるとともに，基礎的・基本的事項を確実に定着させておくことが必要である。そこで本稿では農牧業単元を基にした地理授業展開の一事例に

ついて述べる。

1 中学校社会科地理的分野との関連について

(1) 中学校での農牧業学習

「中学校学習指導要領社会編」（以下中学校学習指導要領という。）では地理的分野に「(1)世界と日本の地域構成」, 「(2)地域の規模に応じた調査（以下大項目(2)という。）」, 「(3)世界と比べて見た日本（以下大項目(3)という。）」の三つの大項目を設定している。このうち大項目(2)では身近な地域, 都道府県, 世界の国々の三つの規模が異なる地域の中から, それぞれ二つ又は三つを選択し, 学習している。その学習の中で実際に地域的特色を捉える調べ方や学び方を通して, それぞれの地域における特色を調べ, まとめる学習活動の中で農牧業についても扱っている。また, 大項目(3)では, 資源や産業から見た日本の地域的特色を理解する学習の中で世界とのかかわりから, わが国の農林水産業の特色についても学んでいる。

このような中学校社会科における地理的分野の学習を踏まえ, 高等学校地理Bの学習に当たっては, これまでの農業体験や見学したことを思い出させたり, 現物資料の提示やICT機器の活用を図り, 興味・関心をもたせることが大切である。また, 地域区分図の作成や統計資料の読み取りなど作業的学習に取り組ませることも学習内容を理解させる上で効果的である。

(2) 中学校の学習内容との接続を考えた学習指導の視点

中学校学習指導要領には, ややもすると網羅的で細かな知識の詰め込みになりがちであった日本と世界の諸地域の学習に関する項目を見直し, 学習内容を厳選するとともに学び方を学ぶ学習の充実が明記されている。

これを受け, 中学校社会科の地理的分野では学習内容が厳選され, 世界と日本を比較し関連付けた学習や, 生徒の主体的な学習を促進し, 学習の過程を重視する展開が進められるようになった。このような状況から高等学校で地理を選択した生徒の中には「中学校と比べ学習が難しい。」「授業で取り扱う分量が多く戸惑う。」などといった声もある。そこで, 次のような視点をもって分かる授業に努めていくことが重要である。

地理を学ぶ上で基礎・基本となる事項を中・高それぞれ相互に確認し, これだけは理解して定着を図っておきたいと考えられる学習内容, 用語などを把握する。

地図帳の積極的な活用を行い, 地理に関する興味・関心を日常から育成する。

中・高の接続を意識した学習指導については, 今後も研究を継続していく必要があるが, まず教える側が中学校, 高校それぞれの学習指導要領や教科書をよく分析し, 学習内容の理解に努めた上で授業に臨むことが大切である。

2 授業の実践事例

(1) 基礎・基本の定着を図るワークシートの工夫例

① 農牧業の立地と変容

【1】農牧業の成立条件

Q1 これからある国の農牧業の風景をVTRで見てもらいます。どこの国の風景で、何が栽培・飼育されているかよく見て、答えを書いてみよう。

番	国名	作物・家畜名
1		
2		
3		
4		

世界の農牧業は、地域によって栽培される作物，飼育される家畜，農業経営の仕方も様々である。

Q2 それではなぜ、地域によって農業の形態が異なるのだろうか？

地図帳の図1で小麦と米の栽培地域の違いをみてどのようなことが分かるだろうか。

米：東南アジアに多い [] 地域

小麦：ヨーロッパ，北アメリカに多い [] 地域

このように農牧業は自然条件に影響を強く受けることが分かる。

Q3 次に挙げる国のうち，国内に「養豚場」がほとんどないと考えられる国はどこ？またその理由は？

韓国 サウジアラビア アメリカ合衆国 ブラジル デンマーク

<その理由>

Q4 授業の最初にみた各農牧業の風景はどの形態にあたるか，考えてみよう。

1 [] 2 [] 3 []
4 []

次に具体的な授業の展開例を述べる。

(2) 指導の実際

過程	時間	生徒の学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	5分	1 本時から新しい単元に入ることを確認する。 2 本時の学習内容，目標を理解する。 世界の農牧業に違いがみられるのはなぜだろうか。	農牧業の学習とこれまで学んだ内容が関連することを伝える。 ICT機器を使用することを伝える。	・ ワークシート
展開	40分	3 VTRで農牧業風景を見て，ワークシートの質問1に答える。 各自の答えを発表する。 4 世界の農牧業は，地域により形態が異なることを確認する。	スクリーンに注目させ，短時間に特色を捉えさせ，記入させる。 一部現物資料を提示する。 農畜産物は多くの種類があることを想起させ，多様性を理解させる。	・ ワークシート(質問1) ・ VTR「世界各地の農牧業風景」 ・ プロジェクター(映像資料) ・ 現物資料(カカオパウダー，小麦粉)

展 開	5 スクリーンに映した図1を見てワークシートの質問2に答える。 座席の周りの生徒と話し合い、解答を比較してみる。	本図は地図帳の図と同じものであることを伝える。 東南アジア、ヨーロッパ、北アメリカはそれぞれどのような気候であったか再確認させる。 スクリーンに注目させ、二つの図の特徴を捉えさせる。 降水量による農牧業の分類は大まかなもので、灌漑設備等で農耕地域となっている例の紹介をする。 各作物の栽培条件が異なることを簡潔に説明する。 1年時の現代社会で学んだ世界の宗教を想起させる。 社会的条件の各要因について、それぞれ具体的な例を挙げ簡潔に説明する。 農業地域区分として五つの指標で13に分類したホイットルサーの区分法が70年を経過した今でも利用されていることを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳 ・ ワークシート(質問2) ・ パソコン ・ プロジェクター (図1「米・小麦の生産」) ・ 地図帳 ・ パソコン ・ プロジェクター (図2「世界の農業地域と気温」) ・ プロジェクター (表1「主な作物の栽培条件」) ・ ワークシート(質問3) ・ ワークシート ・ 地図帳 ・ プロジェクター ・ ワークシート ・ プロジェクター (表2「農牧業の類型化」)
	6 農牧業は自然的条件、特に気温・降水量の影響を強く受けることを確認する。 スクリーンに映した図2で、年平均気温0の線と栽培限界がほぼ一致することを確認する。 降水量の少ない地域は、非農業地域や遊牧地域になっていることを確認する。		
終 末	5分 12 本時のまとめをして、確認を行う。 13 本時の内容についての理解を深めるため、ワークシートの質問4に答える。	農牧業に地域的な差異をもたらす二つの条件、農牧業の類型化に農業地域区分が有効であることをワークシートを用いて、再度確認させる。 農牧業地域の具体的説明はしていないので、解答、説明は教師が行う。 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート(質問4)

(4) 考察

農牧業の単元で、このような事例を取り上げて具体的に考察させる学習を行ったことにより、生徒たちは積極的に考え、発問にも答えようとする姿勢が見られた。また、この後の学習でも、本時で使用したワークシートを活用し、学習に臨む姿勢も見られたので効果を上げることができたと考える。

また、この単元の学習では、単に基礎

的・基本的事項や各農牧業地域の特色に関する知識を教え込むことが中心にならないよう配慮する必要がある。

本稿では農牧業単元を基にした地理授業展開の一事例について述べたが、各学校においては、生徒の実態を踏まえ地理Bにおける学習内容のねらいや考え方を身に付けさせる指導の工夫改善を更に進めることが求められる。(教科教育研修課)